

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 16 日現在

機関番号：33929

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330123

研究課題名(和文) 物流と開発・生産機能の分散と統合 グローバル化とローカル化の間で

研究課題名(英文) The Impacts of globalization and localization on business through the flow of materials and parts

研究代表者

和田 一夫 (WADA, Kazuo)

東海学園大学・経営学部・教授

研究者番号：20121478

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,400,000円

研究成果の概要(和文)：「ものづくり」の研究が日本で盛んに行われている。本プロジェクトでは、設計から流通・販売までを流れる部品や材料の流れを軸として企業を捉えようとした。こうした観点は経営学の草創期から実はコストだけでなく、経営上の問題点を正確に認識するためには重視されてきた。情報通信技術が発展した現在では、経営の重要な骨格をなしているだけに見えにくくなっていることに取り組もうとした。

和田が『ものづくりを超えて』を2013に発表して、それを受ける形でプロジェクト参加者が共同で企業を視察や研究会での発表を通して、研究成果を提出した。具体的には図書5件、雑誌論文16件、学会発表11件を成果としとりまとめた。

研究成果の概要(英文)：Research on “monodukuri” (manufacturing) is more popular than ever. In this project, we have tried to investigate into business from design to distribution through the flow of parts and materials. This idea was actually originated in the nascent years of management studies. Pioneers advocated this for reducing costs as well as identifying troubles in management. Under newer environment such as highly developed ICT, the old ideas became backbone of business. Wada tried this to trace this at the Toyota, publishing titled Monodukuri wo koete [Beyond Manufacturing] in 1913. In responding to this, each participator in this project producing as follows: 5 books, and 16 articles including in some foreign journals, as well as reading 11 papers at learned societies, also including at some foreign countries' societies.

研究分野：経営史、生産管理

キーワード：ロジスティクス 物流 グローバル化 サプライヤー 生産 開発 自動車 システム

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始する当初、プロジェクト参加メンバーはおおむね「ものづくり」関連の研究を行っていた。とはいうものの、研究方向としては個別企業内部に焦点を絞りがちなことは否めなかった。個別の人物に興味がある人物や研究開発に特に関心をよせる、あるいは中規模ないし小規模の企業とその地域に関心を寄せるなどである。しかし、企業はたえず外部環境との関係のなかで活動していることは否定できない。こうした見解は一般的には当てはまるし、抽象的なことをいっても研究が新たな地平を切り拓くわけでもない。和田は『ものづくりの寓話』(2009年刊)を執筆中から、企業の外部との関連を重視すべきと考えていた。その際、具体的に企業が生産する「もの」を効率的生産するために、経営学研究が「研究」として成立する初期から、「もの」を構成する部品・材料を把握し、その仕入れた費用だけでなく、「情報」(コストだけではなく、生産プロセスのうちのどのプロセスにあるかを明確にするためにはどのように「情報」を把握するかが大きな関心を持った。こうした取り組みが、いわゆる情報化時代にどのように受け継がれ、変化しながら実践されているのではないかに関心を抱いた。

こうした観点を、各自が独自に研究を行っていた研究に加味してみようというのが当初の構想であった。

2. 研究の目的

本研究の課題として「物流と開発・生産機能の分散と統合ーグローバル化とローカル化との間でー」としたのは上記1の状況を考えてのことである。「もの」の流れを中心にしながら、開発・生産といった機能を検討しようというものである。さらに、「もの」の動きは国内の企業間だけでなく、海外にまで及ぶことを念頭において、副題をつけた。

3. 研究の方法

研究を始めるにあたって、それまで各自が研究を続行しており、それ完全に中断するのではなく、これまでの研究を、本プロジェクトの視点をいれて見直しながら研究成果をまとめる方向をとった。

研究の成果の方向性を統一することも考えて、協同で当初は物流施設の見学をしながら、それと企業活動との関連に眼を向けることとした。そのため、ほぼ毎年、種々の企業を見学した。また協同の研究会を開き、メールなどだけでは理解がすすまない点まで、研究途上の各自の研究を発表しながら討議することにした。本プロジェクト参加者のバックグラウンドが異なることも考え、あえて統一的研究方法ではなく、本プロジェクトの研究方向を意図的に組み入れた場合に各自の研究がどのように変わるかに力点を置いたプロジェクトとした。

4. 研究成果

本プロジェクトの発端は和田の『ものづくりの寓話』の執筆途中から始まっている。この続編である『ものづくりを超えて』(名古屋大学出版会、2013年)の刊行を書き上げることが第一段階であった。この書物は和田なりに「1. 研究開始当初の背景」での問題意識に基づいたものであり、そのことが対象とした企業の国際化展開の制約になっていたことを述べたものである。この点については簡単に2012年に開催された国際学会で報告し、目下、招待を受ける形で国際学会誌に論文執筆中である。

この書物から得られた知見から本プロジェクト参加者の研究にコメントをしていった。これまで物流についての視点を明確に提示することのなかった研究が出現し始めた。例えば具の学会発表「グローバル時代の開発・生産・調達のインテグレーションとしての物流戦略」にはそれが明確である。また岸本は糸野博行との共編著『中小企業の空洞化適応』にもその傾向がある。さらに松島はASEAN諸国の実態調査を踏まえながら行っている論文や報告のなかにそうした傾向が見られる。

研究成果として図書5件、雑誌論文16件、学会発表11件は本プロジェクト発足時に成果として予想していたものを超えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

1. 松島茂「ミャンマーにおける中小企業指導者の誕生 ウー・ティンウー オーラル・ヒストリー」(『イノベーション・マネジメント』第12号、pp201-210、2015年3月)
2. 松島茂「中小企業政策の変遷と今後の課題」(『日本労働研究雑誌』第649号、pp4-13、2014年8月)
3. 具承桓、「韓国自動車産業の成長と地域産業：グローバル化とローカリゼーションの間で」『東北学院大学論集』第5号、72-90、2014年6月
4. 松島茂「タイの自動車産業とASEAN統合のインパクト」(IMSANews Letter, pp18-21、2014年4月号)
5. 岸本太一・韓載香・岸保行・浜松翔平、「地方ものづくり中小企業の国際化海外製造拠点の設立が国内拠点に与える影響」、『敬愛大学総合地域研究所』敬愛大学総合地域研究』第4号、188-191頁、2014年3月
6. 松島茂「ミャンマーのモータリゼーションと自動車産業」(IMSANews Letter, pp8-11、2014年1月号)
7. 松島茂「東南アジアのモータリゼーシ

- ンと金属プレス産業の展開」(『プレス技術』第21巻1号 pp30-33、2014年1月号)
8. 具承桓・加藤寛之、「日韓競争力転換のメカニズム—造船産業の事例—」、『組織科学』第46巻 第4号、2013。
 9. 具承桓、「日本企業の競争力の変貌と開発現地化問題の本質」、『京都マネジメント・レビュー』第22号、2013。
 10. 岸本太一、「中小企業の空洞化適応パターン 隠れた主流の存在可能性」、Transactions of the Academic Association for Organizational Science, 組織学会, Vol.2, No.1, 2013
 11. 岸本太一、「第6章 日産自動車過去を活かした迅速構築」、伊丹敬之編著『日本型ビジネスモデルの中国展開』、有斐閣、2013。
 12. 具承桓、「第4章 協働型製品開発プロセスと取引」、「終章 ICT化と産業のダイナミズム」藤原雅俊・具承桓編著『ICT イノベーションの革新分析』、104-129、189-203、ミネルヴァ書房、2012
 13. Taichi Kishimoto・Yasuyuki Kishi・Shohei Hamamatsu, "A Survival Strategy of Medium-sized B2B Enterprises in Japanese Machinery Industry: Common Strategies Found in Many Quality Enterprises", *The 5th International Supply Chain Management Symposium and Workshop*, 2012.
 14. Taichi Kishimoto・Shohei Hamamatsu・Yasuyuki Kishi 'A Survival Strategy of Medium-sized B2B Enterprises in Japanese Machinery Industry: Common Strategies Found in Many Quality Enterprises', , 東京大学ものづくり経営研究センター・ディスカッションペーパーシリーズ, No.415, 2012。
 15. 岸本太一・浜松翔平・岸保行、「ものづくり中小企業の海外展開 ‘日本型’ 成功モデルに関する一考察」、東京大学ものづくり経営研究センター・ディスカッションペーパーシリーズ, 査読なし, No.416, 2012。
 16. 岸本太一、「第11章 モデルの背後に流れる原理 人の成長と深い蓄積を活かす」、伊丹敬之編著『日本型ビジネスモデルの中国展開』, 査読なし, 有斐閣, 2013。

〔学会発表〕(計 11 件)

1. 具承桓「現代自動車グループの品質向上

- 要因」, 第2回中韓自動車産業発展フォーラム, 中国国家新息中心・現代自動車主催, 北京, 2014年11月25日。
2. 和田一夫、「豊田喜一郎と製鋼技術—自動車製造事業への進出との関連で—」、日本鉄鋼協会第168回秋季講演大会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム(名古屋大学、2014年9月25日)
 3. 具承桓、「グローバル時代の開発・生産・調達のインテグレーションとしての物流戦略」、国際ビジネス研究会中部部会, 名城大学, 名古屋, 2014年9月20日
 4. 岸本太一、「地域の産業集積の維持・高度化と競争力のある中堅・中小企業の育成策」、一般社団法人日本経済団体連合会産業問題委員会『産業問題委員会競争力強化部会』, 2014年6月25日、経団連会館
 5. 具承桓、「韓国自動車部品サプライヤーの実力, 韓国通商フォーラム, 韓日技術協力財団フォーラム, ソウル, 2014年4月30日。
 6. 松島茂「ASEAN 統合と自動車産業の展望 - タイ・インドネシアを中心に」アジア金型産業フォーラム、2014年5月28日、於：日本工業大学神田キャンパス
 7. 具承桓、「現代自動車グループの中国市場成果と課題」、『第1回 韓国・中国自動車産業発展フォーラム』、招聘発表、2013。
 8. 具承桓、「現代起亜自動車の競争力向上とその要因」、『自動車産業研究フォーラム』八重洲ホール、2012.9.
 9. Kazuo Wada, "Why did Toyota respond less quickly to globalization?" *European Business Association : Business Enterprises and the Tensions between Local and Global*, Paris, 2012.
 10. Shigeru Matsushima, "J-Type Innovation Process Based on Technological Interactions", *European Business Association : Business Enterprises and the Tensions between Local and Global*, Paris, 2012.
 11. Shigeru Matsushima and Ken Nittono, "Toyota Production System in NUMMI : The Examination of the Oral History", Kyoto University & Hosei University Joint International Workshop, 2012.

〔図書〕(計 5 件)

1. KU, Seunghwan(2015, forcoming) "Chapter 7. The rise of the Korean Motor Industry," Paul Nieuwenhuis & Peter Wells (eds), *The*

Global Automotive Industry, Wiley,

2. 岸本太一・糸野博行編著『中小企業の空洞化適応 ～日本の現場から導き出されたモデル～』, 同友館, 2014
3. 和田一夫『ものづくりを超えて：模倣からトヨタの独自性構築へ』, 名古屋大学出版会, 2013年
4. 尾高煌之助・松島茂編、『幻の産業政策 機振法—実証分析とオーラル・ヒストリーによる解明』, 日本経済新聞出版社, 2013。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

和田一夫 (WADA, Kazuo)
東海学園大学・経営学部・教授
研究者番号：20121478

(2)研究分担者

松島茂 (MATSUSHIMA, Shigeru)
東京理科大学・大学院イノベーション研究科・教授
研究者番号：00339508

(3)連携研究者

具承桓 (Ku, Seunghwan)
京都産業大学・経営学部・教授
研究者番号：20367949

(4)研究分担者

岸本太一 (KISHIMOTO, Taichi)
東京理科大学・大学院イノベーション研究科・教授